

X線CT検査・測定サービスを開始

高精度な検査を適正価格で実現

マークテック（東京都大田区、西本圭吾社長）は「X線CT検査・測定サービス」を開始した。X線CT装置を用いた検査や測定結果のレポート作成、内部欠陥確認など顧客の要望に沿った受託検査とともにコンサルティングサービスを行っていく。西本社長は「グループ企業の大羽精研（愛知県豊橋市）や先ごろ包括的業務提携を図ったみらくる分析センター（滋賀県草津市、山田廣成社長）、ナノシーズ（名古屋市中区、島田泰拓社長）」といった各企業と連携して受託検査サービスにおける新たなビジネスモデルを提案していきたい」としている。



みらくる分析センターの山田社長（中央）とマークテックの佐野常務執行役員技術本部長（左）、市川常務執行役員営業本部長（右）

X線CT装置についての教育などの都合からは従来、装置本体の導入 導入する企業が限られて費用や維持費用、検査員 いたものの、最近では炭素繊維素材を取り扱うメーカーや活況な半導体部品メーカーなどを中心に同装置を利用した解析ニーズが高まってきている。一方で高額な検査費用や時間的コスト、専門知識を持つ検査員によるサポート体制を必要とするといった課題もあった。今回マークテックが立ち上げた受託検査サービスでは同社がワークを預かって検査するだけでなく、ユーザーがワークを持ち込んで検査を行うことも可能だ。また、分析装置を用いて独自の研究

開発を行うみらくる分析センターや粉体物性測定で高い知見を有するナノシーズといった企業と連携・協業したことで高精度な検査機器を適正な価格で検査・計測することを実現させた。

主な検査機器は、比較的小さな検査対象物向けで、同じアルコンックス傘下の大羽精研が所有する「TomosScope S」、コメットテクノロジーズ社製の「FF35CT」クラス向け「FF35CT」並びに大型ワークを対象とした「Y、CT Co m p a c t」、みらくる分析センター社製の「MIC6-CT」をラインナップする。特にMIC6-CTは高出力かつ高透過能力を持つ検査装置で、厚い金属内部も観察することができると特微だ。検査内容としては内部欠陥解析やワークの肉厚計測、CADと実測データとの比較、充填率などを解析し、検査結果も専用データ形式で顧客に納品される。

マークテックでは開発段階はもちろん、量産体制への適用についても相談を受けることで西本社長以下、佐野嘉高常務執行役員技術本部長、市川大介常務執行役員営業本部長ら同社一丸となって本サービスのさらなる充実化を図る。また、海外展開する企業についても早くから受託検査ビジネスを展開するタイを拠点に、東南アジア地域へ充実した検査体制の構築に努めていく。

西本社長は今後の展望について「これまで着実に動き出してきたが、4～5年の期間をめどに事業を軌道に乗せたい。3Dプリンターを代表とする新技術への活用など受託検査サービスをさらに知ってもらえればニーズはまだまだある」と述べた。

サービスの問い合わせは、電話03-3762-4453まで。